

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	コリツカクイフクシヤクシカクイフク								
フリガナ大学の名称	シガクイフクシヤクシカクイフク								
大学の位置	滋賀県大津市瀬田月輪町								
大学の目的	医学及び看護学の領域において、優れた研究者及び高度な知識と技術をもつ専門家を養成することを目的とする。								
新設学部等の目的	多様な看護実践上の課題、医療資源や看護ケアサービスの地域格差の課題を解決するための科学的方略を授け、看護の対象者の健康・療養を支援するための最善のエビデンスを創出し、その成果を臨床応用できる人材、またはケアシステムが創成できる人材を育成し、もって看護実践科学の発展と地域医療の質の向上を通じて広く社会へ貢献することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限 年	入学定員 人	編入学定員 年次 人	収容定員 人	学位又は称号	開設時期及び開設年次 年月 第 年次	所在地	【基礎となる学部等】 医学部看護学科 医学系研究科看護学専攻修士課程 14条特例の実施
	医学系研究科 [Graduate School of Medicine] 看護学専攻博士後期課程 [Division of Nursing Science Doctoral Program] 計	3	3	-	9	博士(看護学) Doctor of Philosophy in Nursing	令和6年4月 第1年次	滋賀県大津市 瀬田月輪町	
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	令和6年4月名称変更予定 医学系研究科 看護学専攻修士課程 → 看護学専攻博士前期課程								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	医学系研究科 看護学専攻 (博士後期課程)	講義 11科目	演習 3科目	実験・実習 0科目	計 14科目	16単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任 教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	医学系研究科 看護学専攻(博士後期課程)	9 (9)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	6 (6)
		計	9 (9)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	6 (6)
	既設	医学系研究科 看護学専攻(修士課程)	10 (10)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	2 (2)
		医学系研究科 医学専攻(博士課程)	42 (42)	20 (20)	12 (12)	43 (43)	117 (117)	0 (0)	12 (12)
計	52 (52)	22 (22)	14 (14)	43 (43)	131 (131)	0 (0)	14 (14)		
合計	61 (61)	25 (25)	15 (15)	43 (43)	144 (144)	0 (0)	24 (24)		
教員以外の職員の概要	職種		専任	兼任		計			
	事務職員		192 (192)	243 (243)		435 (435)			
	技術職員		880 (880)	177 (177)		1057 (1057)			
	図書館専門職員		6 (6)	1 (1)		7 (7)			
	その他の職員		3 (3)	60 (60)		63 (63)			
計		1081 (1081)	481 (481)		1562 (1562)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	196,426㎡	0㎡	0㎡	196,426㎡				
	運 動 場 用 地	33,100㎡	0㎡	0㎡	33,100㎡				
	小 計	229,526㎡	0㎡	0㎡	229,526㎡				
	そ の 他	3,492㎡	0㎡	0㎡	3,492㎡				
	合 計	233,018㎡	0㎡	0㎡	233,018㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		33,916㎡ (33,916㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	33,916㎡ (33,916㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	12室	2室	14室	0室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		医学系研究科看護学専攻博士後期課程		13 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能のため、 大学全体の数	
	医学系研究科 看護学専攻 (博士後期課程)	170,750 [67,721] (170,750 [67,721])	10,482 [7,797] (10,482 [7,797])	8,036 [6,491] (8,036 [6,491])	556 (556)	13 (13)	719 (719)		
	計	170,750 [67,721] (170,750 [67,721])	10,482 [7,797] (10,482 [7,797])	8,036 [6,491] (8,036 [6,491])	556 (556)	13 (13)	719 (719)		
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数	大学全体				
		1,867㎡	150	188,000					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体			
		1,197㎡	武 道 場 水 泳 プ ール						
経 費 の 見 積 り 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
	教員1人当り研究費等		-	-	-	-	-	-	
	共同研究費等		-	-	-	-	-	-	
	図書購入費	-	-	-	-	-	-	-	
	設備購入費	-	-	-	-	-	-	-	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		-							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	滋賀医科大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	医学部								
	医学科	6	95	15	664	学士(医学)	1.02	昭和49年度	滋賀県大津市 瀬田月輪町
	看護学科	4	60	-	250	学士(看護学)	0.96	平成6年度	
医学系研究科									
看護学専攻修士課程	2	16	-	32	修士(看護学)	1.37			
医学専攻博士課程	4	30	-	120	博士(医学)	1.36			

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：医学部附属病院 目的：患者の健康の回復及びその維持増進を図るため、総合的な診療を行い、もって医学の教育及び研究に資することを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田月輪町 設置年月：昭和53年4月 規模等：所在地構内、建物：67,086㎡</p>	
	<p>名称：附属図書館 目的：教育・研究に必要な図書雑誌並びに情報に関する資料を収集管理し、職員並びに学生の利用に供することを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田月輪町 設置年月：昭和54年4月 規模等：所在地構内、建物：1,867㎡</p>	
	<p>名称：動物生命科学研究センター 目的：学内教育研究施設として、医学に関する実験動物の飼育管理、系統維持、開発及び実験研究等を行うとともに、共同研究の促進を図り、もって医学教育及び研究の向上発展に資することを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田月輪町 設置年月：昭和53年6月 規模等：所在地構内、建物：6,773㎡</p>	
	<p>名称：実験実習支援センター 目的：学内教育研究施設として、医学の教育、研究に必要な設備、機器を総合的に管理することにより、共同研究の効率化を図り、もって本学における医学の教育及び研究の向上、発展に資することを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田月輪町 設置年月：昭和57年4月 規模等：所在地構内、建物：3,983㎡</p>	
	<p>名称：神経難病研究センター 目的：学内教育研究施設として、先端技術を開発応用する学術研究体制を基に国際共同研究を推進し、認知症をはじめとする神経難病の病因・病態解明及び診断・治療法の開発とその臨床応用研究を推進することにより、神経難病の克服等に資することを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田月輪町 設置年月：平成4年7月 規模等：所在地構内、建物：549㎡</p> <p>名称：NCD疫学研究センター 目的：わが国の中心的拠点として生活習慣病・認知症等の非感染性疾患（NCD）に関する最先端の疫学研究を推進し、もって医学及び公衆衛生の発展に資することを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田月輪町 設置年月：平成25年4月 規模等：所在地構内、建物：1,358㎡</p>	

教 育 課 程 等 の 概 要														
（大学院医学系研究科看護学専攻博士後期課程）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	グローバルコミュニケーション論	1～2通	2			○								兼1
	医療倫理学	1～2通	1			○								兼1
	看護教育学	1～2通		1		○			1	1				オムニバス・共同（一部）
	看護医療統計学	1～2通		2		○								兼1
	保健医療行政論	1～3通		2		○								兼1
	小計（5科目）	—	3	5		—			1	1				兼3
部門別専門科目	生涯発達看護実践科学特論	1前	2			○			2	2				オムニバス・共同（一部）
	看護病態管理学特論	1前	1			○			1					兼3 オムニバス
	NCD看護疫学特論	1後	1			○			1					兼1 オムニバス
	科学的根拠と看護実践	2前	1				○		2	2				オムニバス・共同（一部）
	小計（4科目）	—	5			—			3	2				兼4
ケアシステム創成看護学	コミュニティケア特論	1前	1			○			2					オムニバス
	看護管理学特論	1前	1			○			1					
	ケアシステム創成看護科学特論	1後	2			○			3					オムニバス
	ケアシステム創成看護科学演習	2通	1				○		4	1				オムニバス・共同（一部）
	小計（4科目）	—	5			—			4	1				
特別研究	看護学特別研究	1～3通	6				○		9	3	1			
	小計（1科目）	—	6			—			9	3	1			
合計（14科目）		—	19	5		—			9	3	1			兼6
学位又は称号		博士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
博士後期課程に3年以上在学し、共通科目5単位以上（必修科目3単位、選択科目2単位以上）、部門別専門科目のうちいずれかの部門の専門科目5単位、特別研究科目6単位の合計16単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。							1 学年の学期区分			2 期				
							1 学期の授業期間			1 5 週				
							1 時限の授業時間			9 0 分				

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学系研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	グローバルコミュニケーション論	(概要)世界の最先端の看護研究にアクセスし、自身の研究・臨床に活用し、世界の看護学研究者へ向けて英語で発信することができるための能力を養成する。 (17 加藤穰/全15回)	
	医療倫理学	(概要)授業では、倫理にかなう医療実践とは何かを臨床とケアシステムの視点から模索する。医療現場における倫理を考えるため、生命倫理の諸原則、医療倫理の諸概念について講義の中で再検討し、系統的なアプローチによって事例を検討し、生命倫理、医療倫理について洞察を深める。 (17 加藤穰/全8回)	
	看護教育学	(概要)看護職者に対する教育を担うための教育的機能を果たすために必要な知識や技術を学ぶことを目的とする。特に途切れない支援体制の構築やサービス利用者の価値観を尊重した保健医療福祉の一体的提供(value based medicine)、さらには医療の高度化・複雑化に伴う医療の変化に対応するために必要とされる多職種連携の視点を踏まえた看護教育や、実践の中におけるキャリア開発の支援・教育、コミュニケーション教育に関する教育的課題について知識と技術を習得する。 (オムニバス方式・共同(一部)/全8回) (4 河村奈美子・9 玉木朋子/1回)(共同) ・看護教育学の理論と概観 (4 河村奈美子/4回) ・看護実践に向けたコミュニケーション教育と課題 ・多職種との協働とコンサルテーション ・文献クリティーク(または教育プログラムの発表) ・統括とディスカッション (9 玉木朋子/3回) ・看護教育プログラムの開発と評価 ・看護教育におけるICTの活用、「伝わる」講義資料とプレゼンテーションデザイン ・文献クリティーク(または教育プログラムの発表)	オムニバス方式・共同(一部)
	看護医療統計学	(概要)医学・看護学研究においては、RCT(介入研究)の実施が難しい場合も多く、観察研究、近年ではデータベースを利用した研究も増加し、これらが研究全体に占める割合が大きい。また公表された研究間で得られた結果が一致しない場合や個々の研究の標本サイズが小さく有意な効果を見いだせないことが多い。このため、エビデンス評価のためには、複数の研究のデータを収集し統計的方法にて結果を統合するメタアナリシス研究が重要である。本講義では、Evidence-Based Nursing, Practiceに不可欠である疫学研究・臨床試験及びメタアナリシスの論文の読み方、統計解析手法を学ぶことを目的とする。 各研究デザインの投稿ガイドラインについては、講義において例題をとりあげ、Reporting Guidelineに沿って解説を行う。講義後に自身の関心領域の論文を選択し、クリティカルリーディングを行いレポートを提出する。 (18 原田亜紀子/全15回)	
	保健医療行政論	(概要)日本とアジア各国、そして欧米各国の保健医療行政施策、法制度、行政機構を理解する。 特にNCD克服のための公衆衛生行政施策とその効果を理解する。また、公衆衛生行政における疾病の予防活動の実際と保健医療従事者(主として保健師)の果たす役割について概説する。NCDの予防活動における原理原則と活動の実際に関する基礎的知識を身につける。 (14 三浦克之/全15回)	

部門別専門科目	生涯発達看護実践科学特論	<p>(概要) ライフステージ各期において多様な健康課題を抱える対象者とその家族のケアニーズについて、最善となる看護臨床実践の開発と評価を考究し、生涯発達理論に基づきエビデンスのあるケア倫理をふまえた革新的看護を探求する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回) (① 立岡弓子 / 10回) ・オリエンテーション ・生涯発達理論と健康課題 ・生涯発達からみた倫理的課題 ・小児期・思春期世代の発達課題からみた健康問題 ・小児・思春期世代の発達課題の健康問題と看護アセスメント ・性成熟期世代の発達課題からみた健康問題 ・性成熟期世代の発達課題からみた健康問題と看護アセスメント ・更年期世代の発達課題からみた健康問題 ・更年期世代の発達課題からみた健康問題と看護アセスメント ・生涯発達からみた女性の健康障害と切れ目ない看護実践方略</p> <p>(8 荻田 (武内) 美穂子 / 2回) ・老年期世代の発達課題からみた健康問題 ・老年期世代の発達課題からみた健康問題と看護アセスメント</p> <p>(1 宮松 (西川) 直美・10 山口亜希子 / 3回) (共同) ・成人期世代の発達課題からみた健康問題：慢性期 (超) 急性期・回復期 ・成人期世代の発達課題からみた健康問題と看護アセスメント：慢性期 (超) 急性期・回復期 ・生涯発達からみた非感染性疾患 (NCD) と切れ目ない看護実践方略</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	看護病態管理学特論	<p>(概要) 臨床実践に資する看護学研究の知見創出に不可欠な、対象者の健康障害を生涯発達別に捉え、病態に関する医学的評価および治療・療養による疾病管理方針について教授する。これらの十分な理解の上に、新たな看護ケアの方向性を考究する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全8回) (7 馬場重樹 / 5回) ・オリエンテーション・臨床推論総論 ・成人期の主要な病態と疾病管理・看護職による臨床推論：高血圧、糖尿病、脂質異常症 ・成人期の主要な病態と疾病管理・看護職による臨床推論：がん ・トランジションを見据えた栄養管理 (小児期から成人期、成人期から老年期) ・トランジションを見据えた慢性疾患管理 (小児期から成人期、成人期から老年期)</p> <p>(15 漆谷真 / 1回) ・老年期の主要な病態と疾病管理・看護職による臨床推論：認知症</p> <p>(16 丸尾良浩 / 1回) ・小児期の主要な病態と疾病管理・看護職による臨床推論：小児糖尿病、先天性心疾患、小児がん</p> <p>(19 辻俊一郎 / 1回) ・周産期の主要な病態と疾病管理・看護職による臨床推論：妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病</p>	オムニバス方式

<p>NCD看護疫学特論</p>	<p>(概要) 疫学研究の考え方と研究方法を用いて、看護実践上の課題を解決しうる研究デザインと研究過程で生じうる問題および解決法を、先行研究の批判的吟味および研究計画立案過程から考える。また、疫学研究における倫理的問題について、先行研究に学び、自身の研究課題での留意事項を考える。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (1 宮松 (西川) 直美／7回) ・コホート研究：研究例の紹介と検討 ・コホート研究の計画立案：PECO、看護事象の変数化、倫理的配慮 ・症例対照研究：研究例の紹介と検討 ・症例対照研究の計画立案：PECO、看護事象の変数化、倫理的配慮 ・介入研究：研究例の紹介と検討 ・介入研究の計画立案：PICO、看護事象の変数化、倫理的配慮 ・研究計画発表と討論</p> <p>(14 三浦克之／1回) ・疫学・臨床疫学の基本：NCD疫学研究の歴史に学ぶ</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>科学的根拠と看護実践</p>	<p>(概要) 最善のケアを提供するためにEBPを発展させる方略を探索する科目である。Evidence-Based Practiceという言葉が広く使われるようになった一方、適用することが望ましいケアが実臨床では行われていない(あるいはその逆)という”Evidence-Practice Gap”が生じている。臨床における根拠と実践の乖離を解決するため、研究者及び臨床家のそれぞれの課題、組織的課題、倫理的課題を抽出する。そして、エビデンスを実践に適応する、また臨床応用の実行可能性を高めるための方略を探索する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)／全15回) (① 立岡弓子／2回) ・看護実践への適用方略(エビデンスの創出から適用まで)③：女性の健康に応じた健康支援のための研究 ・看護実践への適用方略(エビデンスの創出から適用まで)④：マタニティサイクルに応じた健康支援のための研究</p> <p>(1 宮松 (西川) 直美／1回) ・看護実践への適用方略(エビデンスの創出から適用まで)①：非感染性疾患(NCD)の発症予防および再発予防に関わる研究</p> <p>(8 荻田 (武内) 美穂子／8回) ・オリエンテーション ・EBPと実装科学 ・臨床応用段階での組織的・倫理的課題 ・臨床応用の実行可能性を高めるための検討の意義とその方法 ・看護実践への適用方略(エビデンスの創出から適用まで)②：フレイル予防及びフレイルハイリスク集団に対する研究 ・慢性期患者に対するEBP活動の展開 ・老年期世代に対するEBP活動の展開 ・特定行為場面におけるEBP活動の実際</p> <p>(8 荻田 (武内) 美穂子・① 立岡弓子／1回) (共同) ・性成熟期世代に対するEBP活動の展開</p> <p>(8 荻田 (武内) 美穂子・10 山口亜希子／1回) (共同) ・急性期患者に対するEBP活動の展開</p> <p>(① 立岡弓子・1 宮松 (西川) 直美・8 荻田 (武内) 美穂子・10 山口亜希子／2回) (共同) ・総合討論① テーマ：Evidence-Practice Gapが生じうる原因 ・総合討論② テーマ：Evidence-Practice Gap解決のための方略</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>

<p>ケアシステム創成看護科学部門</p>	<p>コミュニティケア特論</p>	<p>(概要) 病院・施設・地域の垣根を越え、コミュニティの中の途切れない支援体制の構築およびコミュニティメンバーの文化や価値観を尊重した保健医療福祉の提供 (value based medicine)、さらには地域の健康課題の複雑化・多様化に対応する共創的なコミュニティのあり方と倫理に配慮した支援に関する知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (② 伊藤美樹子／2回) ・市民・当事者と専門職者の共創およびエンパワメント ・当事者コミュニティのエンパワメントと倫理的課題</p> <p>(③ 辻村真由子／6回) ・コミュニティケアに関する理論および鍵概念 ・多職種連携(IPW)の理論と実践 ・多職種連携教育(IPE)の理論と実践 ・在宅介護とテクノロジーの共創および倫理的課題 ・多様な文化・価値観を尊重した合意形成のプロセス ・統括とディスカッション</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>看護管理学特論</p>	<p>(概要) 保健医療福祉領域をはじめとする複雑系社会システムにおいて、安全で質の高いケア環境を実現するためには、様々な要素を取り上げたうえで、関連性を考慮しつつ全体を俯瞰しながら解決策を導き出すことが求められる。そこで、看護管理学の主要概念に加え、組織づくりに関する創造的かつ実践的な問題解決の方略を教授する。また、看護における組織管理に関する国内外の最新の知見と臨床での展開事例を紹介し、討議を通じてシステム創成に向けた今日的な課題解決方略の設計に関する理解を深める。</p> <p>(④ 笠原聡子／全8回)</p>	
	<p>ケアシステム創成看護科学特論</p>	<p>(概要) 保健医療福祉の複合的な課題解決に向けて、住民、専門職、行政など多様な人々との連携・協働によるケアシステムの創成とその持続可能性を高めるための理論や概念を理解し、高齢者の家族介護・高齢者の居所と医療に関する意思決定といった個人の選択と尊厳に関わる倫理的かつ具体的な事例に関する討論を通して、包括的かつ継続的なケアシステム創成とその社会実装化のための能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (② 伊藤美樹子／6回) ・ケアシステム創成と持続にかかわる主要概念① 健康投資、健康インフラ ・ケアシステム創成と持続にかかわる主要概念② 女性の健康と健康施策、ソーシャルキャピタル ・コミュニティにおける高齢者の看取りと連携システム① 医療一介護の連携における看護の位置付け ・コミュニティにおける高齢者の看取りと連携システム② 生活の場における医療介護ニーズへの対応と個人の選択と尊厳を基盤にした意思決定支援を含む家族支援 ・コミュニティにおける高齢者の看取りと連携システム③ 専門職依存からの転換による看取りの成功事例 ・総括とディスカッション</p> <p>(③ 辻村真由子／6回) ・ケアシステム創成と持続にかかわる主要概念③ エビデンスに基づく実践の普及と実装に資する研究の推進 ・訪問看護の人材育成のしくみづくり① 役割移行理論、成人学習理論、組織学習理論 ・訪問看護の人材育成のしくみづくり② 日本における新卒訪問看護師育成の事例 ・訪問看護の人材育成のしくみづくり③ 海外の事例 (イギリス等) ・地域における在宅ケアロボットの活用① 日本の事例 ・地域における在宅ケアロボットの活用② 海外の事例</p> <p>(④ 笠原聡子／3回) ・ケアシステム創成と持続にかかわる主要概念④ 質評価、アウトカム評価、プロセス評価 ・病院での新システム導入と拡充の評価① RRS等 ・病院での新システム導入と拡充の評価② 転倒防止等</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>ケアシステム創成看護科学演習</p>	<p>(概要) ケアシステム創成の学術的な発展、体系化と成果の社会実装化を遂行できる研究実践力を養うため、ケアシステム創成看護科学部門のプロジェクト研究に取り組む。また効果的な資料の作成や発表と質疑応答を通して自己課題を明確にするとともに、倫理的な課題も含めた批判的な吟味と討論を通じて研究が洗練されていく過程を学修する。研究の遂行にあたっては複数の担当教員から助言を受けながら主体的に展開し、学位論文の予備的研究にあたる研究に取り組む。以上により、研究疑問の設定と実施可能な研究計画の立案のための研究者としての資質を高める。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回)</p> <p>(② 伊藤美樹子 / 4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予備的研究の課題設定：プロジェクトの概要と文献検討 ・社会実装化に向けた研究のデータ収集と解析① コミュニティにおける高齢者の看取りと連携システム ・社会実装化に向けた研究の成果の倫理も含めた批判的吟味① コミュニティにおける高齢者の看取りと連携システム ・社会実装化に向けた研究の根拠資料の作成① コミュニティにおける高齢者の看取りと連携システム <p>(③ 辻村真由子 / 4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予備的研究の課題設定：プロポーザルと分担課題の明確化 ・社会実装化に向けた研究のデータ収集と解析② 訪問看護と地域包括ケアシステム ・社会実装化に向けた研究の成果の倫理も含めた批判的吟味② 訪問看護と地域包括ケアシステム ・社会実装化に向けた研究の根拠資料の作成② 訪問看護と地域包括ケアシステム <p>(④ 笠原聡子 / 3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会実装化に向けた研究のデータ収集と解析③ 病院における看護ケアの質・安全管理システム ・社会実装化に向けた研究の成果の倫理も含めた批判的吟味③ 病院における看護ケアの質・安全管理システム ・社会実装化に向けた研究の根拠資料の作成③ 病院における看護ケアの質・安全管理システム <p>(4 河村奈美子・9 玉木朋子 / 3回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会実装化に向けた研究のデータ収集と解析④ 看護実践に向けたコンサルテーション・看護教育プログラム ・社会実装化に向けた研究の成果の倫理も含めた批判的吟味④ 看護実践に向けたコンサルテーション・看護教育プログラム ・社会実装化に向けた研究の根拠資料の作成④ 看護実践に向けたコンサルテーション・看護教育プログラム <p>(② 伊藤美樹子・③ 辻村真由子・④ 笠原聡子・4 河村奈美子・9 玉木朋子 / 1回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合・論述 	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
-----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------

<p>特別 研究 科目</p>	<p>看護学特別研究</p>	<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な健康課題を抱える対象者とその家族のケアニーズについて、また病院から地域を繋ぐ健康課題の解決に向けた持続可能なケアシステムの創成について、最善となる看護実践の開発に資する研究に取り組む。 2. 個人の専門領域に従って、国内外の文献レビュー・研究課題の明確化・研究デザインおよび方法の選択・研究計画書の立案・データ収集・分析・論文化までの一連のプロセスを踏み研究実践能力を養う。 3. 研究倫理審査委員会への受審、研究助成金申請書類の書き方を教授し、その対応能力を養う。 4. 研究プロセスにおいて、多領域からなる専門家の意見交換を通じて様々な研究的視点を理解し、自立して研究を行うための能力を修得する。 <p>(生涯発達看護実践科学部門)</p> <p>(① 立岡弓子)</p> <p>少子高齢社会における母子の社会的環境を包括的に理解し、女性のライフサイクルに応じた健康問題について、ウイメンズヘルスの視点と周産期にある母児・家族への支援について助産学の視点からその解決方法を明確にしていくことを探求する。</p> <p>(1 宮松(西川)直美)</p> <p>成人期に顕在・潜在する非感染性疾患(NCD)をはじめとした様々な健康問題を解決するため、EBM/EBNの基盤となる疫学研究法により健康障害や関連要因の評価および看護介入の効果の検証を行い、ひとが生涯を通して健康で幸福に生きるための看護実践に資する科学的知見の構築を推進する。</p> <p>(7 馬場重樹)</p> <p>各種病態における栄養状態やエネルギー代謝を評価し、適切な栄養アセスメントに基づく栄養治療を提案する。 また、栄養治療の実践に関する問題点や栄養サポートチームの介入効果、栄養成分が腸内環境に与える影響などについての研究を通して看護実践に資する科学的知見の構築に取り組む。</p> <p>(⑤ 桑田弘美)</p> <p>子どもの成長・発達・健康を支援する看護の役割を基盤として、希少難病、心身障害、がんに罹患している子どもと家族のおかれている状況に合わせた援助について、小児看護・家族看護の理念から療育行動、生活環境への支援についての看護実践方略を探求する。</p> <p>(⑥ 喜多伸幸)</p> <p>産科危機的出血に代表される母児のクリティカルな状態を引き起こす出血性疾患の病態の理解をふまえた産科医療と新規の治療法に基づく母体管理の有用性について提案する。また、産科出血治療の実践に関する問題点や母児管理方法が母体予後に与える影響についての研究を通して、看護実践に資する科学的知見の構築に取り組む。</p> <p>(8 荻田(武内)美穂子)</p> <p>高齢者やフレイルハイリスク集団の健康課題を理解し、課題解決のためのアプローチ方法を探求する。フレイル予防や生活機能維持・向上のための看護ケアのエビデンス創出に取り組む。</p> <p>(10 山口亜希子)</p> <p>急性期やクリティカルケア期にある患者と家族の健康問題を解決するために、看護実践上の課題に関する定性データの定量化を試み、患者と家族の健康の回復と維持に貢献しうる科学的評価とケア倫理に基づいた看護実践を構築する。</p> <p>(ケアシステム創成看護科学部門)</p> <p>(③ 辻村真由子)</p> <p>高まる在宅ケアのニーズを満たすための支援方法の開発・人材育成を含むシステム構築に関する研究課題について、在宅ケア・在宅看護学の視点から、国際的動向を踏まえ、ケアシステムの創成および社会実装に向けた研究に取り組む。</p>	
-------------------------	----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

(2) 伊藤美樹子)

少子高齢化による地域コミュニティの衰退、世帯構成員の縮小や家族機能の脆弱化、社会経済的な格差、家族の多様化などの影響を受ける地域における健康課題の看取り、社会参加、病いと共に生きること解決に寄与する個々人の力量形成や組織的かつ倫理的に配慮した支援に関する研究に取り組む。

(4) 笠原聡子)

安全で質の高い医療ケア提供の実現に向け、広く看護管理の視点からケアシステムを俯瞰し、看護課題を見出し、解決策を探求する。さらに、得られた研究成果の社会発信と学術的議論を経て、ケアシステム創成と成果の社会実装化に取り組む。

(4) 河村奈美子)

コミュニティの中のあるゆる世代と健康状態にある個人及び集団の心の健康の維持・増進に向けた予防活動や援助について、精神看護に関する概念の理解と精神力動的視点を踏まえた治療的患者-看護師関係の視点に依拠しながら、地域、多職種との関係の中において課題解決や精神看護の発展に貢献する研究に取り組む。

(9) 玉木朋子)

実践的で効果的な看護教育の方法の開発や評価等、看護教育におけるエビデンスの構築を目指す研究をおこなう。また、QOLに関連したビッグデータの解析をおこないながら、リアルワールドでの調査も実施する。統計的な知見と現場でのリアルワールドとの関連についても追究する。

(11) 山下敬)

看護の対象である患者の病態を理解し、疾患や治療内容をふまえた患者支援に還元するための基礎的研究の経験をふまえ、看護実践に応用できる看護技術の新たなエビデンスの創出を目指す。また、男性看護師の業務の裁量や質向上、協働のあり方を探求する。

国立大学法人滋賀医科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
滋賀医科大学				滋賀医科大学				
医学部	2年次			医学部	2年次			
医学科	95	15	657	医学科	<u>90</u>	15	<u>645</u>	1年度限りの臨時 定員増終了
看護学科	60	0	240	看護学科	60	0	240	
計				計				
	155	15	897		<u>150</u>	15	<u>885</u>	
滋賀医科大学大学院				滋賀医科大学大学院				
医学系研究科				医学系研究科				
医学専攻(4年制D)	30		120	医学専攻(4年制D)	30		120	
看護専攻(M)	16		32	看護専攻(M)	16		32	
				看護専攻(D)	<u>3</u>		<u>9</u>	課程変更(意見 伺い)
計				計				
	46		152		<u>49</u>		<u>161</u>	